

# 保育の長時間化と乳幼児の生活構造の変化(続報)

-- 保育園児の家庭生活時間調査より --

清水 民子

## I. 問題の所在と研究目的

既報論文(清水 2001; 清水 2002)で述べたように、現代の保育所保育は「8時間を原則とする」基準を残しながら、「11時間を通常保育」とする保育ニーズへの対応を常態化し、深夜に及ぶ夜間保育については24時間あらゆる時間に対応する保育へとサービス提供を変えてきた。

この変化は、基本的に保育所を利用して働くおとなたちのニーズに対応して「とりあえず保育時間の延長」という政策姿勢によっている。おとなが仕事をしている間、保護し、養育を保障されることは子どもの側の権利であるから、保育時間の延長はとりもなおさず子どもの保育ニーズの中核に位置づけられるのは当然であるが、「原則8時間」から1~2時間の延長を求めて保護者による運動が起こった1960年代の「子どもにとってよくない」という行政サイドの反対論のカベは、いまは跡形もない。「少子化対策」の強大な後押しの影響もあり、保育時間は昼夜を問わず、時間の長短を問わず、預かれることが基本となりつつある。

筆者は、保育時間延長へのカベの厚かった1960年代以来、保育時間の諸問題、とくに保育所におけるデイリープログラムの編成をめぐる保育所の実践にもとづく討論にかかわってきた。なかでも全国保育問題研究協議会の主催する全国保育問題研究集会に設置されている「保育時間と保育内容」の分科会は、さまざまな延長保育の形態のもとでの保育園のデイリープログラムを検討してきた。その際に、家庭生活を含めた24時間の子どもたちの生活実態を把握することの必要性、保育園の保育内容をつうじて家庭生活にも影響を与えうる保育計画の必要性に気づき、課題としてきた。

しかしながら、保育者が問題意識をもって見る極端な事例のエピソードの報告をもって、家庭生活の全般的実態と考えることは誤りや偏りを免れないだろう。家庭生活は、保育園側からは十分には見えない部分である。子どもや親の話から推測するか、保育園に来ているときに見せる親子のかかわりかたから推察するかである。誤解や憶測も生じやすい。

できるだけ客観的に家庭生活の実態を把握することが研究の課題である。この論文では、えられた調査資料の予備分析の試みとして、1か園の調査結果を主に分析することを目的とする。

## II. 研究方法

### 1 調査票の作成

調査用紙は、[乳幼児生活調査票]として、

- (1) 子どもの朝の生活について(午前4時から11時半まで30分刻み、14項目の生活内容)
- (2) 子どもの夕方から夜の生活について(午後3時から午前2時まで、13項目の生活内容)
- (3) 家族の生活について(8項目、選択肢設定)
- (4) 子どもの生活について、日ごろ経験したり感じたりしていること(10項目)
- (5) 子どもの生活について、自由記述、

の5部構成、フェイスシートを含めA4判4ページの様式で作成した(表1に一部を例示した)。

表1 乳幼児生活調査票(一部)

I. お子さんの朝の生活についてお尋ねします。それぞれの時間帯にいる場所と該当する生活内容を で囲んでください(以下略)	
午前	
4:00	.....自宅 通園途中 保育園 睡眠 食事 着替え 洗顔 歯みがき 排泄 入浴 室内遊び 外遊び テレビ 絵本
4:30(以下略)	
II. お子さんの夕方から夜の生活について、それぞれの時間帯に居る場所と該当する生活内容を で囲んでください。(以下略)	
午後	
3:00	.....自宅 帰宅途中 保育園 食事 入浴 排泄 睡眠 室内遊び 外遊び テレビ 絵本 家族と遊ぶ けいこ事
3:30(以下略)	

## 2. 調査対象

保育所に子どもを預けている保護者に保育所をつうじて記入を依頼した。調査協力保育所は、保育士の参加する研究会などで依頼し、応諾をえられた保育所である。本報告では、新潟県の私立K保育園保護者による回答、3歳未満児34名、3歳以上児54名計88名分を資料として用いた。K保育園は朝7時から夕方19時まで開園している。

比較資料として、京都市内にあるA保育園の資料(3歳未満児6名、3歳以上児23名)を随時利用している。ただ、A保育園の資料は数が少なく、年齢的にも偏りがあるため、比率の比較には適当でないことに留意したい。

## 3. 調査時期および調査方法

2003年1月に保育園をつうじて保護者に質問紙を配布、回収した。A保育園については、2003年2月、同様の方法で回答をえた。

## Ⅲ. K保育園乳幼児の家庭生活 -- 資料と考察

### 1. 朝の生活 -- 登園前の家庭生活

調査票(1)の回答を集計した結果が表2および表3である。

これらにより、保育園児の朝 -- 登園前の生活内容の概略を述べる。

5時台~6時半までに目覚める子どももいるがわずかである。6時半以降になると目覚める子どもが増え、7時を過ぎると約半数は起きている。朝食は、7時~7時半に摂っている子どもが多い。洗顔、歯みがきはその前後になるが、記入のない回答もある。朝は、子どもにとって遊ぶ暇もないと思われるが、テレビや室内遊びを20~30%が記入している。この点では3歳未満児の方が多い。

### 2. 夕方から夜の生活 -- 帰宅後の家庭生活

表4および表5に調査票項目(2)の記入の集計結果を示す。

17時を過ぎるまで、降園する子は少ない。17時半~18時の降園が大多数である。18時半を過ぎて園に残っている子は3歳以上児ではわずかであるが、3歳未満児は10%以上いる。後に、他の項目の回答で示されるが、ほとんどがマイカーを使っての送迎で、所要時間も30分以内が多いので、18時半には90%近い子どもは帰宅している。

夕食は19時~19時半が最も多く、18時半から20時までの時間帯にばらついていて、帰宅後から子どもは、おもちゃを出して遊ぶ、テレビをつけるなど、わが家での習慣となっている遊びをはじめ、夕食後から入浴までの間に、「絵本」(読み聞かせ)と「家族との遊び」の親がかかわってやる活動が多くなる。

入浴は20時ごろから、就寝は21時ごろから多くなっていく。しかし、100%が眠りに就くのは23時

表2 朝の生活 K保育園 3歳未満児(34名中%)

時間	自宅	通園途中	保育園	睡眠	食事	着替え	洗顔	歯みがき	排泄	入浴	室内遊び	外遊び	テレビ	絵本
5:00	100	0	0	100	0	0	0	0	2.9	0	0	0	0	0
5:30	100	0	0	100	2.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6:00	100	0	0	97.1	2.9	0	0	0	2.9	0	0	0	2.9	0
6:30	100	0	0	85.3	17.6	20.6	2.9	5.9	14.7	0	2.9	0	2.9	0
7:00	100	11.8	5.9	32.4	41.2	41.2	11.8	5.9	17.6	0	11.8	0	26.5	2.9
7:30	85.3	17.6	20.6	14.7	50	26.5	17.6	20.6	17.6	0	23.5	0	35.3	8.8
8:00	55.9	29.4	50	2.9	14.7	11.8	8.8	11.8	8.8	0	11.8	0	26.5	5.9
8:30	26.5	29.4	82.4	0	0	2.9	2.9	2.9	5.9	0	0	0	5.9	0
9:00	2.9	11.8	97.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9:30	0	2.9	100											
10:00	0	0	100											
10:30														

表3 朝の生活 K保育園 3歳以上児(54名中%)

時間	自宅	通園途中	保育園	睡眠	食事	着替え	洗顔	歯みがき	排泄	入浴	室内遊び	外遊び	テレビ	絵本
4:30	100	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5:00	100	0	0	98.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5:30	100	0	0	98.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6:00	100	0	0	94.4	1.9	1.9	3.7	0	3.7	0	0	0	1.9	0
6:30	98.1	0	0	81.5	20.4	25.9	1.9	3.7	3.7	0	1.9	0	5.6	0
7:00	96.3	9.3	1.9	51.9	38.9	29.6	20.4	20.4	16.7	0	3.7	0	20.4	0
7:30	85.2	20.4	20.4	18.5	35.2	27.8	14.8	20.4	40.7	0	9.3	0	37	0
8:00	61.1	33.3	42.6	1.9	27.8	20.4	11.1	13	9.3	0	5.6	0	29.6	0
8:30	29.6	33.3	79.6	0	1.9	3.7	9.3	11.1	9.3	0	1.9	0	13	0
9:00	3.7	20.4	98.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9:30	0	0	100	0										
10:00														

を過ぎてからである。3歳以上児の方が就寝が遅い傾向にある。また、A保育園の資料を参照すると、3歳未満児では、類似の傾向だが、3歳以上児では0時過ぎまで起きている子どもがわずかだが見られる。

### 3. 保育園児の家庭生活の実態と条件

調査票の質問群(3)は、(1)(2)の時間帯別生活調査の背景となっている家庭生活条件を知ろうとするものである。その回答結果を表6-1～6-8に示す。

子どもの保育園の立地条件は、子どもの健康や生活リズムと親の仕事と子育ての両立を左右する重要な条件のひとつである。表6-1、6-2、6-3に見るように、保育園が「自宅に近い」が70数%、「親の職場」、「交通の便」を加えると、3歳未満児の全部、3歳以上児の90%近くが、通園に便利な位置に住んでいるといえる。交通手段は表6-2に見るように、大部分がマイカーを用い(とくに3歳未満児では)ているが、「歩いて」「自転車」の通園もある。表6-3に見るように、保育園への送迎に要

表4 夜間の生活 K保育園 3歳未満児(34名中%)

時間	自宅	帰宅途中	保育園	食事	入浴	排泄	睡眠	室内遊び	外遊び	テレビ	絵本	家族と遊ぶ	けいこ事
15:30	0	0	100										
16:00	0	2.9	94.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16:30	2.9	2.9	91.2	2.9	0	0	0	2.9	0	2.9	0	0	0
17:00	5.9	8.8	88.2	0	0	0	0	8.8	0	2.9	2.9	0	0
17:30	26.5	44.1	70.6	0	0	0	0	17.6	0	8.8	5.9	11.8	0
18:00	67.6	29.4	20.6	14.7	5.9	8.8	0	29.4	0	38.2	11.8	20.6	0
18:30	88.2	11.8	11.8	32.4	14.7	23.5	0	52.9	0	32.4	14.7	35.3	0
19:00	94.1	11.8	0	47.1	5.9	5.9	0	47.1	0	44.1	17.6	41.2	0
19:30	97.1	2.9	0	35.3	17.6	5.9	0	38.2	0	44.1	26.5	47.1	0
20:00	97.1	2.9	0	14.7	26.5	14.7	5.9	52.9	0	32.4	35.3	64.7	0
20:30	100	0	0	0	26.5	5.9	8.8	50	0	29.4	47.1	64.7	0
21:00	100	0	0	2.9	26.5	23.5	41.2	26.5	0	14.7	20.6	41.2	0
21:30	100	0	0	0	5.9	8.8	64.7	20.6	0	17.6	20.6	23.5	0
22:00	100	0	0	0	0	2.9	91.2	2.9	0	2.9	14.7	5.9	0
22:30	100	0	0	0	0	2.9	100	0	0	0	0	0	0
23:00	100	0	0	0	0	2.9	100	0	0	0	0	0	0
23:30	100	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0
0:00	100	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0

表5 夜間の生活 K保育園 3歳以上児(54名中%)

時間	自宅	帰宅途中	保育園	食事	入浴	排泄	睡眠	室内遊び	外遊び	テレビ	絵本	家族と遊ぶ	けいこ事
15:30	0	0	100										
16:00	0	0	98.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16:30	1.9	9.3	94.4	0	0	0	0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	0
17:00	14.8	18.5	75.9	0	0	0	0	13	3.7	5.6	3.7	3.7	0
17:30	37	46.3	51.9	1.9	0	1.9	0	25.9	5.6	13	3.7	9.3	0
18:00	79.6	46.3	16.7	9.3	5.6	7.4	0	42.6	0	37	7.4	20.4	0
18:30	87	16.7	1.9	35.2	5.6	14.8	0	44.4	0	50	13	22.2	0
19:00	94.4	74.1	0	46.3	5.6	11.1	0	48.1	0	74.1	13	33.3	0
19:30	96.3	1.9	0	33.3	9.3	11.1	0	40.7	0	68.5	14.8	37	0
20:00	98.1	1.9	0	13	40.7	5.6	0	44.4	0	46.3	16.7	40.7	0
20:30	100	0	0	0	31.5	11.1	1.9	59.3	0	59.3	25.9	50	0
21:00	100	0	0	0	24.1	13	33.3	35.2	0	33.3	24.1	27.8	0
21:30	100	0	0	0	5.6	11.1	55.6	24.1	0	24.1	24.1	14.8	0
22:00	100	0	0	0	1.9	3.7	83.3	9.3	0	1.9	20.4	3.7	0
22:30	100	0	0	0	1.9	1.9	98.1	0	0	1.9	7.4	0	0
23:00	100	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0
23:30	100	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0
0:00	100	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0

表6-1 保育園の場所（回答率％）

	K園 3歳未満児	K園 3歳以上児	A園 3歳未満児	A園 3歳以上児
イ 自宅に近い	76.4	72.2	50.0	45.5
ロ 親の職場に近い	26.5	13.0	16.7	45.5
ハ 交通に便利	8.8	7.4	0	22.7
ニ 遠くて不便	0	11.1	33.3	4.5

表6-2 自宅から保育園までの交通手段（回答率％）

イ 歩いて	8.8	24.1	33.3	4.5
ロ 自転車で	0	7.4	33.3	45.5
ハ 自家用車で	97.1	88.9	50.0	63.6
ニ 電車やバスで	0	0	0	13.6

表6-3 自宅から保育園までの所要時間（回答率％）

イ 30分以内	100	96.3	83.3	100
ロ 30分～1時間	0	1.9	16.7	0
ハ 1時間以上	0	0	0	0

表6-4 保育園に送迎する人（回答率％）

イ 母親が多い	67.6	83.3	100	77.3
ロ 父親が多い	11.8	5.6	0	9.1
ハ 都合のよい方	20.6	11.1	0	13.6
ニ その他	5.9	11.1	16.7	4.5

表6-5 登園前や降園後に子どもを自宅以外で預かってもらうこと（回答率％）

イ ほとんどない	85.3	79.6	83.3	86.4
ロ 時々ある	11.8	13.0	16.7	13.6
ハ 毎日のようにある	2.9	5.6	0	0

表6-6 子どもの朝食（回答率％）

イ 毎朝自宅で食べている	97.1	92.6	83.3	100
ロ 登園途中で食べさせることもある	8.8	7.4	0	0
ハ 食べない	5.9	0	0	0
ニ 保育園で食べる	0	0	0	0

表6-7 子どもの夕食（回答率％）

イ 毎晩自宅で	97.1	90.7	100	100
ロ 帰宅途中で夕食	2.9	1.9	16.7	13.6
ハ 親族や知人の家で	11.8	7.4	16.7	0
ニ 保育園で	0	0	0	0

表6-8 夕食後、就寝までに親子で日課にしていること（回答率％）

イ その日の出来事話し合う	29.4	64.8	16.7	36.4
ロ 絵本を読む	58.8	51.9	83.3	77.3
ハ 遊具で遊ぶ	41.2	18.5	16.7	13.6
ニ おけいこ事の練習	0	3.7	0	4.5
ホ その他	5.9	3.7	0	9.1

する時間は30分以内が大部分である。比較資料の京都市内A園では、交通手段として自転車の利用がK園より多く、その分マイカーの利用が少なくなっている。これはK園の所在する地方都市のおそらく生活全般にわたるマイカー利用の習慣とA園周辺の駐車の問題など、地域的な背景も影響しているといえよう。

表6-4で、保育園への送迎担当者についての質問への回答を掲げている。「母親が多い」という回答が多数である。家庭での子育ての役割分担については、これ以外に取り立てて設問していないが、日常的役割分担の一端はこの項に現れているともいえよう。ちなみに、本調査の回答記入者もほとんどが母親であった。父母以外の方が送迎を担当する例は10%内外である。表6-4に見るように、登園前や降園後に自宅以外で預かってもらうことが「ほとんどない」家族が80%を超えるが、「時々ある」は10%強、「毎日のように」必要な家族も数%存在する。

食事については、表6-6、表6-7に示しているが、「自宅で」が90%を超えている。朝食を「登園途中で」、夕食を「帰宅途中で外食」は10%内外が時にはあると答えている。食事に関する、家庭中心の意識と習慣は根強く守られているといえよう。

すでに生活内容調査の結果で見たように、夕食後は、子どもの遊びと親子のコミュニケーションの時間となっている。その時間帯に親子で「日課」として、相互に期待しあっていることは何だろうか。順位を考慮して記すと、3歳未満児は「絵本を読む」が最も多く、「遊具で遊ぶ」、「その日の出来事について話し合う」と続く。3歳以上児では、「その日の出来事について話し合う」が最も多く、「絵本を読む」、「遊具で遊ぶ」となっている。年齢によるこの違いは、子どもの発達における言語コミュニケーションの役割が家族内でも親子の交流の手段に影響していることを示している。「遊具で遊ぶ」活動は、3歳以上児ではひとり遊びやきょうだいとの遊びとしておこなわれるが、3歳未満児では親が相手をしてやる必要性の所在をうかがわせる。「絵本を読む」日課は両年齢グループとも50%を超え、比較資料のA園では両グループとも80%内外で最も多い親子活動となっている。この結果は、「絵本」への親の関心の大きさを示しているが、近年、「絵本の読み聞かせ」が親子の交流活動の具体的方法としてマスコミなどで注目され、さらに最近では教育行政のなかでも推進されていることから親の熱心さを招いているといえよう。とくに、1日のしめくくりとして、「寝る前の1冊」のように、就寝に向かう儀式として習慣化している場合が多いのではないかと推察される。

#### 4. 子どもの生活にかかわる親の意識と感想

子どもとともに生活し、子どもの行動を見ていて、親として感じることを、体験として意識することを10項目の文章から選択する方式で回答を求めた（複数選択可）。結果を表7に示している。選択の多いものから見ていくと、K園3歳未満児では、「朝は子どもを急かすことが多い」、「夕方、自宅に帰るとほっとした気分」、同比率で「寝るまでの生活にゆとりがない」となり、仕事と子育ての両立へのあせりやストレスと夕方自宅に帰りつきたときの束の間の安心・安堵感が表出されている。3歳以上児の親は一番に「子どもを急かす」をあげている点では、同じだが、「夕方、子どもが遊びに熱中し、食事や入浴、就寝の時間が遅くなる」という悩み（子どもの要求との対立）が2番めに多くなっている。3番目が「ほっとした気分」である。比較資料のA園でも、比率の順位は異なるが、「子どもを急かす」や「ゆとりがない」、「遊びに熱中して、……遅くなる」が高率で選ばれている。

「夕方、自宅に帰ると、子どもが必ずやりたがることもある」という項目は、子どもが自分の家で居場所を定め、自分の好みのおもちゃなどで自発的に遊ぶことで、自ら選んだ活動をつうじて自分の世界をつくっているかどうかをとらえるものである。選択率は比較的少ないが、3歳以上児では、「自分のおもちゃをありったけ出して遊ぶ」、「テレビを見たがる」、「お絵描き」、「ゲーム」など、具体例があげられている。3歳未満児では、「おっぱい（母乳）をほしがる」、「抱っこしてもらいたがる」

表7 子どもの生活について感じていること(回答率%)

	K園3歳未満	K園3歳以上	A園3歳未満	A園3歳以上
1. 朝、なかなか起きてくれないので困る	29.4 ⑥	31.5 ④	33.3 ③	45.5 ③
2. 朝、食事をあまり食べないので心配である	23.5 ⑦	22.2 ⑦	33.3 ③	13.6 ⑦
3. 朝は、子どもに「早く早く」と急かすことが多いと思う	58.8 ①	74.1 ①	50.0 ②	77.3 ①
4. 睡眠不足や食事の不規則が心配である	17.6 ⑨	11.1 ⑨	0.0	9.1 ⑩
5. 夕方、保育園に迎えにいかっても、すぐには帰らず、親子で園庭で遊ぶことが多い	8.8 ⑩	11.1 ⑨	16.7 ⑦	18.2 ⑤
6. 夕方、自宅に帰ると、親も子どもほっとした気分になる	41.2 ②	33.3 ③	16.7 ⑦	18.2 ⑤
7. 夕方、自宅に帰ると、子どもが必ずやりたがることもある	23.5 ⑦	24.1 ⑥	33.3 ③	13.6 ⑦
8. 夕方、子どもが遊びに熱中し、食事や入浴、就寝の時間が遅くなることがある	35.3 ④	44.4 ②	16.7 ⑦	54.5 ②
9. 夕方、親が家事をしたいと思っても、子どもは遊び相手になってほしいといってきかない	32.4 ⑤	13.0 ⑧	33.3 ③	13.6 ⑦
10. 帰宅が遅いので、寝るまでの生活にゆとりがないと感じる	41.2 ②	31.5 ④	66.7 ①	45.5 ③

など、母親への愛着を示し、「お菓子をほしがる」など食べ物への嗜好を示すことで、保育園とは異なる家庭のムードのなかでの自己表出をおこなっている。

朝の目覚めや朝食への食欲、睡眠不足や食事の不規則など、生活習慣や生活リズムの形成にかかわる不安を示す回答は10~30%と多くはないが、自由記述などと合わせると、将来の発達とかわかって、そのことを強く心配する親たちの一群がいることが注目される(すなわち、一方にはあまり気にしない親も多いということを示している)。

#### IV. 総括的討論

本報告では、現在、比較的多くの園の保育時間と見なされる、朝7時から夕方7時までの12時間の保育のもとでの、登園前と帰宅後の家庭での生活に関する調査結果を検討した。そこからうかがわれる検討課題を以下に指摘したい。

##### 1. 生活リズムの問題 -- とくに夕食をめぐる

保育園児の生活については、朝食抜き(起きるのが遅く食べる時間がない、食欲がない)、夕食時間が遅い、就寝時間が遅いなど、生活習慣形成上の問題が指摘されてきた。

しかし、本調査のK園の結果では、朝食抜きはほとんどなかったといってよい。登園途中の食事(マイカーへの持込みであろう)もそれほど常態化しているわけではなさそうである。

夕方は、19時までの保育時間いっぱい残っている子どももいるが、多数が6時を過ぎると帰宅している。ほとんどがマイカー利用の帰宅なので、移動に要する時間が最小限ですんでいるので、遅すぎ

る帰宅とはいえない。食事は19時台前半を中心に18時半から20時までにはばらついている。何時でなければならないという食事時間規範を画一的に立てるわけではないが、子どもの夕食としてまあまあ常識的な時間から、遅すぎはしないかと思われる時間までの幅があるといえる。これが食事づくりにかかる時間によるのか、父親の帰宅を待つなど家族の習慣によるのかはわからないが、食事が節目となって夜の時間の子どもの生活スタイルの多様性が形成されてくるのではないと思われる。

夕食をめぐるのは、保育園での夕食の提供、夕方の軽食(おやつ)の充実、3時台のおやつのみ(腹持ちを工夫する)という選択肢をめぐる保育園で結論の出にくい議論が続けられている。7時に降園する子どもが家で食べる夕食は遅すぎの時間帯に確実に入るといえよう。しかし、本報告の大部分の子どもがそうであったように、6時台に帰宅、7時台の夕食であれば、許容範囲にあるといえる。保育園児も、帰宅後、自宅での食事が当たり前という習慣は、日本の食事文化と家族のあり方への人々の常識を基盤にもつ根強い規範である。他園の資料によれば、あきらかに夜間にかかる20時まで、あるいは22時までの保育時間のばあいは、親たちも夕食の給食を受け入れている(その場合も、帰宅後、両親と共に食べる場合がある)。

## 2. 子どもの遊びと親子のコミュニケーションの時間としての「夜」

本調査の就寝時間には、21時から22時半(3歳以上児では全員が就寝状態になるのは11時、比較資料のA園3歳以上児では0時)と時間帯の幅は大きい。

資料から推測される所では、夕食後、親は後かたづけやその他の家事に手を取られ、子ども(とくに3歳以上児)は一人遊びやきょうだいとの遊びで過ごしている(このなかにはテレビやビデオを見ることも含まれる)。親が家事を終えて、あるいは子どもの入浴や就寝の準備が必要な時間だと認識して、子どもと絵本読みなどの交流時間を取り、就寝に向けて方向づけていく。帰宅から就寝までの時間は、長い子どもでは5時間くらいある。食事や入浴など生活行為のほかに3~4時間が遊びと親子の交流にあてられている。

夜の時間はゆったり過ごしたい時間である。帰宅から夕食、入浴、就寝と分刻みで追っていくのは親も子どもも落ちつかない。しかし、中には、テレビや絵本にかけている時間が異様に長いと感じられる事例もあった。

現在、親たちのまわりには、親子のかかわりあいや対話の重要性を強調するメッセージがあふれている。親子のコミュニケーションの具体的な表現が絵本の読み聞かせという形で範示されている。昼間、子どもを保育所に託している親たちは、夜の家庭生活で子どものための時間を補償しなければならないと強く思い込んでいる。生活を共にする時間の短さを不安に感じるストレスから、時には長すぎる子どもとの共同活動に時間を費やすのではないかという感想も生じるのである。

## 3. 家庭の子育てと保育園文化

前節の議論にもかかわらず、本調査資料からは、親たちの子どもの生活の望ましい習慣や時間的リズムを確立することに向けられた熱意を読み取ることができる。在宅の母親に育てられている子どもの多くが朝寝坊し、朝食と昼食をかねた昼前の食事を食べている現実は筆者も見聞するところである。その実情の一方で、早朝に子どもを起こし、朝食を済ませてから登園させる努力を多くの親たちが実行していることは注目してよいであろう。

保育園は親たちに子どもにとって望ましい生活と、そのための親の努力について常にメッセージを発し続けている。早寝早起きの重要性や絵本の読み聞かせの意義を訴えるメッセージもそのひとつである。保育園からのメッセージとそれらを共有する親たちの集団の相互作用が、子育ての規範意識を形成し、維持していく上で大きな役割を果たしているといえよう。

## 付 記

本報告は、日本学術振興会による平成13・15年度科学研究費補助金（基盤研究C・2）による「保育の長時間化と乳幼児の生活構造の変化」（課題番号13610325）による研究の一部である。

## 文 献

- 清水民子、2001、保育の長時間化と乳幼児の生活構造 平成10・12年度科学研究費補助金（基礎研究B・2、代表・土屋基規）研究成果報告書「21世紀に向けての子どもの発達環境に関する総合的研究」p.1・15所収）
- 清水民子、2002、保育の長時間化と乳幼児の生活構造の変化 -- 乳幼児の生活時空間の形成における「夜」の過ごし方 -- 平安女学院大学研究年報 第2号 p.13・23 .

# The Daily Routines of Young Children at Day Nursery Care in Japan

Tamiko SHIMIZU

88 nursery children's morning and evening activities at home were investigated by administering a questionnaire to their parents. The diversity of children's life style such as the schedule for their daily routine is the results of their parents' thoughts about the likely developmental effect on their children. Some parents think going to bed early is important, and others think that parent-child interaction is more important during the child's evening hours.